資料７

説　明　資　料

【目　次】

説明資料１	平和推進と結び合わせた復興体験発信の充実・・・・・・・・・・・・・・・・	Ｐ１
説明資料２	広島修学旅行に関する敬宮愛子さまの作文・・・・・・・・・・・・・・・・・	Ｐ４
説明資料３	資料館をハブとした新しい平和学習の４つの特徴・・・・・・・・・・・・・・	Ｐ５
説明資料４	広島広域都市圏における平和学習についての協働・・・・・・・・・・・・・・	Ｐ９
説明資料５	平和を願う市民の心を土台に財源を確保する多元的な手法・・・・・・・・・・	Ｐ11

説明資料１

平和推進と結び合わせた復興体験発信の充実①

■平和文化のまちにおける二層の構造

（Ⅰ）平和記念公園	（Ⅱ）その他の都心地域
核兵器廃絶と世界恒久平和の実現	廃虚から復興した広島を実感 （幸せ・にぎわいを感じる）
（公財）広島平和文化センターを中心に、 ボランティアなどが参加	幅広い地域住民が参加

来広者や市民が行き来

■二層の構造による来広者への発信

○　来広者は、平和記念公園と資料館で被爆体験を深く知ることにより、核兵器は廃絶すべきという気持ちを強く持つことになる。

○　一方、来広者は、その周辺では広島の美しい街を楽しむことができるので、両エリアを行き来して比較することで、幸せやにぎわいといった、希望にあふれた平和を感じることができる。

説明資料１

平和推進と結び合わせた復興体験発信の充実②

広島平和記念都市建設法（昭和２４（１９４９）年施行）

広島市を「平和記念都市」として建設することを目的

そのためには、広島市の復興再建が前提

【市民の思い】

復興のプロセスの中で、「平和の実現」も「賑わいの創出」も、多くの市民の犠牲の上に築かれたものなので、「鎮魂の祈り」につながると捉えられていた。

【多くの来広者】

被爆の実相はもとより、それと対比し、広島市が活気あるまちに復興できた理由を知りたい。

平和推進と結び合わせて復興体験の発信を充実することが必要ではないか

■復興体験の発信を充実する意義

期待される効　果	○ 復興し、発展を続ける広島のまちが、これからも世界の平和を支え続けていく姿が明確になる。
	○ 若い世代を含めた市民の「未来志向の平和への思い」につながる。
	○ 来広者にとって、悲惨な戦争は繰り返してはならないという意識と「人間の立ち直れる力」への前向きな共感を育むことにつながる。

説明資料１

平和推進と結び合わせた復興体験発信の充実③

＜（例）市民の復興への希望となり、平和への願いを伝えて続ける「カープ球団」＞

昭和24（1949）年

「カープ球団」設置

「明るい平和都市建設の一環として明るく強い球団を」といった論調

（その後、市民球団ゆえの財政難）

► 球場前での「樽募金」やカープ後援会など市民による熱心な支援

昭和32（1957）年

広島市民球場（基町）落成

建設費の9割を地元企業が寄附

昭和50（1975）年

「カープ球団」初優勝

平和大通りでの優勝パレードに約30万人のファンが集結

古葉竹識（たけし） 広島東洋カープ監督（当時）

感動的であったのは、沿道の人たちが遺影を持って立っていらっしゃったこと、戦時や原爆で亡くなった人たちの遺影なんです。『うちの父ちゃんが喜んでるよ』と言いながらね。それを見て僕も涙が出ました。

説明資料２

広島修学旅行に関する敬宮愛子さまの作文

世界の平和を願って

〈敬宮愛子さま学習院女子中等科卒業文集（平成29（2017）年）〉

卒業をひかえた冬の朝、急ぎ足で学校の門をくぐり、ふと空を見上げた。雲一つない澄み渡った空がそこにあった。家族に見守られ、毎日学校で学べること、友達が待っていてくれること…なんて幸せなのだろう。なんて平和なのだろう。青い空を見て、そんなことを心の中でつぶやいた。このように**私の意識が大きく変わったのは、中三の五月に修学旅行で広島を訪れてから**である。

原爆ドームを目の前にした私は、突然足が動かなくなった。まるで、七十一年前の 八月六日、その日その場に自分がいるように思えた。ドーム型の鉄骨と外壁の一部だけが今も残っている原爆ドーム。写真で見たことはあったが、ここまで悲惨な状態であることに衝撃を受けた。平和記念資料館には、焼け焦げた姿で亡くなっている子供が抱えていたお弁当箱、熱線や放射能による人体への被害、後遺症など様々な展示があった。これが実際に起きたことなのか、と私は目を疑った。平常心で見ることはできなかった。そして、何よりも、原爆が何十万人という人の命を奪ったことに、怒りと悲しみを覚えた。命が助かっても、家族を失い、支えてくれる人も失い、生きていく希望も失い、人々はどのような気持ちで毎日を過ごしていたのだろうか。私には想像もつかなかった。

最初に七十一年前の八月六日に自分がいるように思えたのは、被害にあった人々の苦しみ、無念さが伝わってきたからに違いない。これは、本当に原爆が落ちた場所を実際に見なければ感じることのできない貴重な体験であった。

その二週間後、アメリカのオバマ大統領も広島を訪問され、「共に、平和を広め、核兵器のない世界を追求する勇気を持とう」と説いた。オバマ大統領は、自らの手で折った二羽の折り鶴に、その思いを込めて、平和記念資料館にそっと置いていかれたそうだ。私たちも皆で折ってつなげた千羽鶴を手向けた。私たちの千羽鶴の他、この地を訪れた多くの人々が捧げた千羽鶴、世界中から届けられた千羽鶴、沢山の折り鶴を見たときに、皆の思いは一つであることに改めて気づかされた。

平和記念公園の中で、ずっと燃え続けている「平和の灯」。これには、核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けようという願いが込められている。この灯は、平和のシンボルとして様々な行事で採火されている。原爆死没者慰霊碑の前に立ったとき、平和の灯の向こうに原爆ドームが見えた。間近で見た悲惨な原爆ドームとは違って、皆の深い願いや思いがアーチの中に包まれ、原爆ドームが守られているように思われた。「平和とは何か」ということを考える原点がここにあった。

平和を願わない人はいない。だから、私たちは度々「平和」「平和」と口に出して言う。しかし、世界の平和の実現は容易ではない。今でも世界の各地で紛争に苦しむ人々が大勢いる。では、どうやって平和を実現したらよいのだろうか。

何気なく見た青い空。しかし、**空が青いのは当たり前ではない。毎日不自由なく生活ができること、争いごとなく安心して暮らせることも、当たり前だと思ってはいけない。なぜなら、戦時中の人々は、それが当たり前にできなかったのだから。**
日常の生活の一つひとつ、他の人からの親切一つひとつに感謝し、他の人を思いやるところから「平和」は始まるのではないだろうか。

そして、唯一の被爆国に生まれた私たち日本人は、自分の目で見て、感じたことを世界に広く発信していく必要があると思う。「平和」は、人任せにするのではなく、一人ひとりの思いや責任ある行動で築きあげていくものだから。

「平和」についてさらに考えを深めたいときには、また広島を訪れたい。きっと答えの手がかりが何か見つかるだろう。そして、いつか、そう遠くない将来に、核兵器のない世の中が実現し、広島の「平和の灯」の灯が消されることを心から願っている。

説明資料３

資料館をハブとした新しい平和学習の４つの特徴①

【経緯・位置付け】

■平和に関する意識実態調査（広島市教育委員会　平成23（2011）年3月）

「広島の大学生の平和教育に関する意識調査」（抜粋）

〈広島市出身者〉

○　**低年齢時**の悲惨な写真や資料を見るなどの学習経験がトラウマとなり、それが平和教育に対する「こわい」、「やりたくない」等の拒否感や消極性につながっていることが示唆された。

○　平和教育に対する「よい、大切」という肯定的なイメージよりも、「受け身的、一面的」、「恐い、哀しい」という否定的で暗いイメージの方が強いといえる。その要因としては、**多面的視点**から考える学習や、自ら**主体的に思考**するような学習経験が少ないためではないかと考えられる。

■平和教育プログラム　（広島市教育委員会　平成25（2013）年）

被爆の実相を理解することや、継承と発信を主軸に、**発達段階**に即した目標や内容を体系化したプログラム

○　**小・中・高**の12年間を一体的に捉え、こどもの発達段階を踏まえた学習目標を設定
○　各学年に応じ、「**ひろしま平和（へいわ）ノート**（学習用教材）」を編纂（主体性・探求性を確保）
○　**主体的な発信**に重点（「こどもピースサミット」、「伝えるHIROSHIMAプロジェクト」など）

資料館をハブとした新しい平和学習

さらに、児童・生徒の発達段階を踏まえた、主体的・探究的な平和学習を強化するため、市内外に「資料館をハブとした新しい平和学習」を展開することを目指す。

説明資料３

資料館をハブとした新しい平和学習の４つの特徴②

１　資料館平和学習展示の開設（令和10（2028）年度予定　我が国初の「平和学習に特化した常設展示」）

教育的観点から、児童・生徒の発達段階を踏まえて、展示内容を工夫

- ○　これまでどおり、「原爆投下は本当にあったんだ」と知り、日常の**平和が当たり前でない**との意識変容（平和を尊重する意識の出発点）
- ○　同世代のこどもや家族に着目し、**学校や家庭**での日々の暮らしをテーマとする展示
- ○　具体的な被爆したこどもの**物語**に沿った展示（被爆前・被爆直後・戦後を通した**ライフ・ヒストリー**としての展示）
- ○　戦後の展示では、**平和を希求する心**の育成に重点（佐々木禎子さんと「原爆の子の像」、イラストによる復興プロセスの概観など）
- ○　平和学習**支援スタッフ**（教員OBを予定）を展示スペースに配置

２　展示内容と連動した事前学習の深化

展示内容に沿った事前学習用資料の作成　別紙　、配布

（例）楮山ヒロ子さんの**物語**を取り上げた事前学習用資料（原爆ドーム保存の可否などをこども同士で**討論**）

３　児童・生徒の心理的安定性の確保

被爆の実相を伝える重要性を前提としつつ、**心理的影響**を受けるおそれのある児童・生徒に配慮

- ○　平和学習展示室の照明や壁面を明るくするとともに、心身の不調に備えた**セイフティスペース**を設置
- ○　**選択展示**（一部の被災写真や絵画の見学を、自主的・主体的に判断）
- ○　**心理的配慮マニュアル**（事前・当日・事後のケア等を内容とする。）を作成し　別紙　、各学校に配布

４　教育の中立性の保持

これまでどおり留意しつつ、市内外への展開に当たり発信

- ○　「平和学習を考える教師の集い」（8月広島、12月川崎）や「平和首長会議国内加盟都市Web会議」（11月）などで論議
- ○　各自治体の**教育委員会**や**小・中学校校長会**等公的主体との連携強化に当たり、発信

別 紙

事前学習用資料及び心理的配慮マニュアルの作成・展開

1 目　的

事前学習用資料及び心理的配慮マニュアルについて、**専門的な知見**を活かすとともに、**学校現場における実践・評価**を踏まえた効果の高いものとするため、以下の枠組み・スケジュールにより策定する。

2 枠組み

(1) 開発協議会の設置（構成員：広島大学教育学部、広島市教育委員会、広島平和文化センター）

「事前学習用資料部会」及び「心理的配慮マニュアル部会」を設置

→ 各資料の内容検討・評価・改善、児童・生徒の平和意識等調査の内容検討・分析

⇕

(2) 協力校の依頼

広島市立小学校２校、中学校２校

→ 平和学習や心理的ケアの**実践研究**

→ 児童・生徒の**平和意識等調査**の実施

3 スケジュール

区　分	令和９（2027）年度	令和10（2028）・11（2029）年度
開発協議会	各資料の試行版の作成	○ 協力校への指導・助言 ○ 各資料の試行版の修正 → 第１版の作成
協 力 校	児童・生徒の平和意識等の事前調査	○ 平和学習や心理的ケアの実践研究 ○ 児童・生徒の平和意識等調査の実施

※平和意識等調査結果、事前学習用資料及び心理的配慮マニュアルについて、順次市内のみならず**全国に展開**

説明資料３

資料館をハブとした新しい平和学習の４つの特徴③

【ヒロシマ平和学習総合支援サイト（広島平和文化センター）】

①ヒロシマ平和学習プログラムへ参加する自治体や②修学旅行等で広島を訪れる学校への支援、③その他個人や団体への平和学習用資料の提供や講座等の紹介、④ユース・ピース・ボランティアの支援を行うため、令和８（２０２６）年３月開設しました。

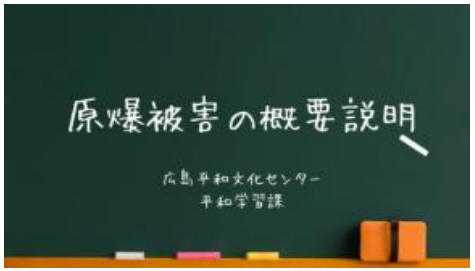
公益財団法人 広島平和文化センター 平和学習課
ヒロシマで平和学習をしよう (サポート窓口)

〈平和学習コンテンツ等〉
① **自治体の方**・・・・・・広島での平和学習プログラムと事前学習用資料等の紹介
② **学校・教員の方**・・・・学校における平和学習と教材や「平和学習を考える教師の集い」等の紹介
③ **その他個人・団体**・・・平和学習に関する講座・講話、教材・資料、動画等の紹介



例えば、以下の動画等が視聴可能

若い世代による原爆被害の説明【約15分】





「ヒロシマ平和学習受入プログラム」紹介動画
【ﾌﾙﾊﾞｰｼﾞｮﾝ 約23分】
【ﾀﾞｲｼﾞｪｽﾄ 約6分】

説明資料４

広島広域都市圏における平和学習についての協働①

【若い世代への平和学習の展開に関する申し合わせ】

広島広域都市圏を構成する各自治体は、それぞれの地域において、原爆被害や戦災に係る展示、平和イベントの開催など、平和意識の醸成のための多様な事業に取り組んでいるところである。

一方で、各自治体の平和文化形成に重要な役目を担ってきた被爆者や戦争経験者の方々は、被爆・戦後８０年を経て非常に高齢となり、減少していくことが明らかである。このため、市民社会が、これからも平和の希求という理想を持ち続けていくに当たっては、その基盤として若い世代の平和意識を高めることが喫緊の課題となっている。この次世代による継承の重要性については、日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞理由の中でも言及されている。

また、被爆地や各地の戦跡での平和学習は、若い世代が、平和の対極にある原爆被害や戦争の実在を知ることにより、平和な生活が実は当たり前ではなく、先人の努力の上にある貴重なものとの認識を深めることにつながり、平和意識を高め、行動する契機となっており、同時に、世界各地の紛争に目を向け、今も市民が苦しめられているという認識にもつながるものである。このことからすれば、より多くの若い世代に、原爆や戦争の被害を実感できる機会を提供することは極めて重要である。

そのような中、今年１月には、全国の自治体からなり、本協議会の全ての自治体も構成員となっている平和首長会議国内加盟都市会議総会において、「戦後８０周年を契機とした若い世代への平和学習の展開について」を申し合わせたところである。

さらに、**広島広域都市圏が一体**となって平和を尊重する意識を高めていくことは、**住民間の連帯と交流を活性化**することにつながり、**圏域全体の発展**にも資するなど、**人口減少の中で地域の持続可能性を確保するための貴重な文化的基盤**となる。

以上を踏まえ、広島広域都市圏協議会は、被爆８０周年を契機として、住民の平和意識と圏域の賑わいを持続的に高めていくため、下記の取組を連帯して推進することを申し合わせる。

記

次世代の平和文化の担い手を育成していくため、各自治体の実情に応じて、各自治体での戦争の悲惨さに関する学びや、被爆地・各地の戦跡、各種博物館等への派遣など、若い世代が原爆や戦争を実感することで、平和を尊重し、戦争を起こさないことの重要性への意識を高めることにつながる平和学習に取り組む。

令和７年（２０２５年）７月１日
広島広域都市圏協議会

説明資料４

広島広域都市圏における平和学習についての協働②

【ユース･ピース･ボランティア活動への参加促進】

広島平和文化センターでは、中・高・大・社会人と一貫して平和活動に携わることができる「ユース・ピース・ボランティア」※制度を設け、平和文化の担い手の育成、平和人材の輩出を目指しています。

※「国内対応」：8月６日に全国から集まるこどもたちと「全国平和学習の集い」や「全国こども平和サミット」で交流・議論
「国外対応」：ヒロシマを訪れる海外の若い世代との議論等

この平和活動には、以下のとおり、**広島広域都市圏協議会の取組**として若い世代の積極的な参加を働きかけています。

① 広島広域都市圏推進協議会で、**各市町を通じた参加呼びかけ**を依頼
② 中国地方各県の**教育委員会**を通じて参加を働きかけ
③ 広島広域都市圏内では、ボランティア活動に係る**交通費を全額支給**（例えば、出雲市は8,800円/日）

広島広域都市圏（広島市以外）　**７７人が参加**（中学生18人、高校生４０人、大学生19人）(令和8(２０２６)年度)

■国内対応：３５人（４４９人）

うち中学生 １８人（３５６人）…… 東広島市1人、府中町１人、海田町１人、北広島町２人、大崎上島町１０人、浜田市２人、出雲市１人

うち高校生 １７人（　９３人）…… 呉市１人、東広島市７人、廿日市市３人、府中町１人、海田町３人、北広島町１人、浜田市１人

■国外対応：４２人（１８４人）

うち高校生 ２３人（１２８人）…… 呉市１人、東広島市６人、廿日市市４人、江田島市２人、府中町２人、坂町１人、安芸太田町１人、北広島町１人、大崎上島町３人、世羅町１人、岩国市１人

うち大学生 １９人（　５６人）…… 呉市１人、東広島市15人、廿日市市1人、府中町１人、坂町１人

説明資料５

平和を願う市民の心を土台に財源を確保する多元的な手法①

○　資料館の来館者等が平和への思いを深め、その思いが込められた貴重な財源を有効活用することは、平和事業を**意義あるものとして進める**ために、大きな役割を果たします。

○　このため、入館料に加え、以下の多元的な手法により、**平和を願う市民の心**とともに**財源**を涵養する取組を、来館者等の**自発的な選択**も大事にしながら、さらに進めていきます。

(1) ミュージアムショップ　昭和58(1983)年10月～　(令和8年(2026)3月　全面リニューアル・オープン)

ミュージアムショップは、展示見学後、平和への思いを抱きながら、**平和への思いが込められた商品**を購入できる場所であり、購入した商品は日常生活に戻った後も平和を思い起こすきっかけとなります。



リニューアルしたピース・クリエーション・ファクトリー※(R8.5.19撮影)

※建築家　丹下健三氏のいう「**平和を創り出すための工場**」を具現化するため命名

売上高(令和7年度)
2億7,300万円

純利益(令和7年度)
4,500万円

※令和８年度売上高(４月～７月)増加率 **1.5倍**

※令和7年度の同時期と比較

取組の充実

- 資料館**オリジナルピースグッズ**のさらなる開発・販売
- 修学旅行生等の活用促進
- 店舗における商品陳列上の工夫
- セット券販売の試行
  (入館料200円＋買物券500円を500円で販売)　など

オリジナルピースグッズの例



ボールペン



マグネット

説明資料５

平和を願う市民の心を土台に財源を確保する多元的な手法②

⑵ 音声ガイド

平成4（1992）年1月～ （令和8（2026）年1月 利用料金見直し【400円→500円】）

展示内容や関連する物語をより詳細に理解してもらうことを目的として、15言語での音声ガイドの貸出を行っています。これにより、特に日本語・英語以外を使用言語とする来館者は、母国語での解説を聞くことが可能となり、大きな助けとなります。

売上高（令和7年度）
7,000万円

純利益（令和7年度）
3,300万円

※令和８年度売上高（４月～７月）増加率 **1.4倍**
※令和7年度の同時期と比較

取組の充実

音声ガイド機器の台数増加

➢ 利用者増（全ての機器が貸出されるケースが頻発）等に対応するため、機器500台を追加整備



音声ガイド機器

⑶ 寄附箱

令和8（2026）年3月28日～

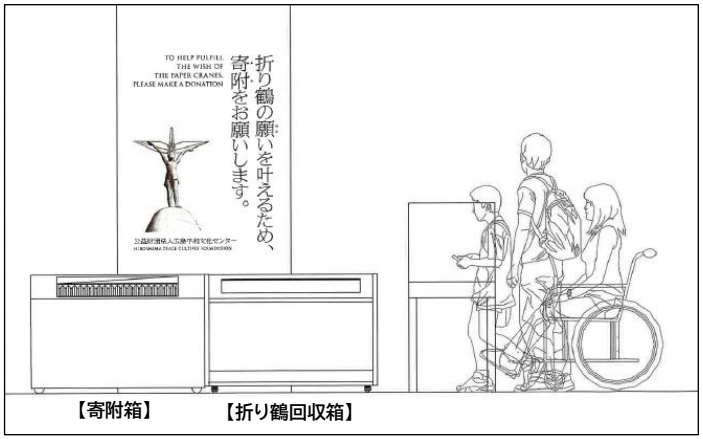
令和8（2026）年3月の「ヒロシマは訴える」コーナー設置を契機に設置しました。
これにより、被爆の実相に触れた来館者が、自分たちにもできる具体的な平和への行動として、寄附ができるようにしています。

寄附総額 **218万円** ※設置から7月末までの額

取組の充実

寄附箱の周辺で、来館者が足を止め、思いを巡らす工夫

➢ 来館者が平和への願いを込めて「折り鶴」を折る体験スペースを設置する予定であり、一連の流れにおいて、自発的な寄附を促進



寄附箱の周辺（イメージ）